






埼玉県ゴマ栽培暦

月旬	5月			6月			7月			8月			9月						
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下				
生育・作業	排水対策が重要			出芽不良(苗立ち5株/m未満)の場合まき直し			オオタバコガ防除			カメムシ類の幼虫が確認された場合防除			収穫適期 開花後35日~45日 裂蒴期から7日以内			収穫が遅れると収量ロスが大きい			    
	深耕・暗渠設置	耕起・施肥・ 土壌処理剤・ 明渠掘り	播種		中耕		防除		防除		収穫	乾燥・ 調製	5月下旬播きでは8月下旬頃、 6月下旬播きでは9月中旬頃、 7月下旬播きでは10月上旬 頃の収穫となる						
生育シ				出芽	栄養成長期 (10~40cm程度)	開花期 (50~80cm)		開花盛期 (100~150cm)			裂蒴期 (120~200cm)						目標収量 80kg/10a		
管理のポイント	土づくり・施肥						播種						湿害対策						
	<ul style="list-style-type: none"> 堆肥を施用する場合は完熟堆肥2t/10a程度を前年秋に施用する。春の施用は控える。 高pHでは生育が悪くなることもあるため、石灰によるpH調整の必要は基本的にない。 基肥は窒素成分で6~9kg/10a。開花期の葉色が水稻葉色板で5.0未満の場合、窒素成分で3kg/10a追肥する。土壌診断を行い、施肥量を 						<ul style="list-style-type: none"> 基本的には日平均気温20℃を上回ってから播種する 播種深は、土壌が乾いているときは深めに(3~4cm)、播種後4日以内に豪雨が予想される場合はクラストが形成されやすいため浅く(0.5~1.5cm)したほうが出芽率が高くなる クラストができやすいほ場では粗めに耕起し、逆転ロータリは使用しない 条間70~90cmで、mあたり20~25粒播種(播種量50g/10a程度) 目標苗立ち9~14株/m程度、5株/mを下回ればまき直す 二深法播種(マニュアル参照)であれば安定して出芽を確保しやすい 						<ul style="list-style-type: none"> 前年秋に石灰窒素を40~60kg/10a程度施用する(施用した場合は基肥を減肥する)。春の施用は控える。 明渠や暗渠、深耕等による排水対策を徹底する 水はけの悪いほ場では冬作の残渣はすきこまずにほ場から持ち出す 播種前に酸素発生剤ネオカルオキソを20kg/10a程度施用すると湿害を軽減できる。 						
	作型選択						病害虫・雑草防除						収穫・調製						
<ul style="list-style-type: none"> 基本的には最も多収となる5月下旬~6月上旬播種をメインの作型とする。 早期播種ではハウス等で育苗し、早播で直播する場合は被覆資材による保温を行う 梅雨期の播種では湿害対策を重点的に実施する 梅雨明け播種栽培ではうどんこ病に弱い白ゴマ系の品種は避ける 						<ul style="list-style-type: none"> 可能であれば水稻と輪作し、萎凋病などの土壌病害を防止する 罹病した植物体はすきこまずに圃場から持ち出し、農機具類も洗浄する 虫害に関しては、栽培初期はネキリムシ、中期はオオタバコガ、後期は吸蜜性カメムシ類に特に注意して防除する。 除草は播種~40日程度が重要。土壌処理型の除草剤の効果が弱まってくる播種後25日頃に中耕する。遅すぎると根を痛めるので注意する。 						<ul style="list-style-type: none"> 株の最下位の蒴果が乾燥・裂開する裂蒴期から7日以内に収穫する。開花期からはおよそ35~45日となる。 開花から35日以降はこまめにほ場を確認する チョウ目害虫が混入すると糞が問題となる 株ごと乾燥させて脱粒する方法と、蒴果だけを収穫して乾燥・脱粒する方法がある 							